

交野市教委ニュース

第97号 (平成30年7月26日発行)

「交野市小中一貫カリキュラム研修会」を開催しました

平成30年7月19日(木)、ゆうゆうセンターにおいて「交野市小中一貫カリキュラム研修会」を開催しました。各学校の校長・教頭・教員が参加し、小・中9年間を一貫したカリキュラムや、指導内容の異校種・異学年・他教科とのつながりについての理解を深めることにより、各学園(各中学校区)の9年間を通じた教育課程の編成と、系統的な教育の実施をめざしたカリキュラムの検討に必要な手立てやマネジメント能力を育むことを目的に、京都産業大学 理学部数理科学科 教授 牛瀧文宏 教授をお招きし、「算数・数学科における9年間を一貫したカリキュラムや指導をマネジしよう」というテーマでご講演いただきました。

京都産業大学 牛瀧 文宏 氏による講

小中一貫教育について、算数・数学科に関連する具体例をお示しいただきながら、

- 「小中連携」：小と中をつなぐ
「小中一貫」：小と中を一つとみる
- 小中一貫教育は目的ではない。
- めざすところは、15歳の学力保障と、教員の授業力向上。
- 小中一貫教育は、小学校と中学校をつないで出来上がりではない。つなぐところは、学校種だけではなく、教科や学年にもある。
- 教科教育には独自性と連続性がある。
- 教科教育ではギャップの解消よりも、段差を乗り越える力を与えるべき。
- 高度情報社会の中、小中を「つなげる」教育を行わざるを得ない。
- 発達段階を考慮しつつ、(小中が)ともに変わらざるを得ない。

等、たくさんのご示唆をいただきました。

また最後には、「教育のプロたる教師として何をしますか」との投げかけとともに、“学校の教室でしかできない授業を”“身近な憧れの先生であって”“先生方の教科専門力、指導力、人間力に期待”と教員に向けて、力強く温かいメッセージを届けていただきました。

「交野市の小中一貫教育」がより一層充実したものになるよう、今後も引き続き支援してまいります。

